夕方支援の検討について

前回の議事の夕方支援に関するアンケート結果に基づき、事業者に対して通所施設の延長についてヒアリングを下記のとおり行ったので、報告する。

1 ヒアリング対象事業所

アンケートにおいて、「サービスの延長が必要」と回答した3事業所。

2 ヒアリング内容

(1) 現状

- ・現在の終了時間は、15:30～16:00まで。
- ・利用者は20代～70代まで、保護者は、40代後半～70代後半までと幅広い。
- ・利用者の生活形態は、保護者と同居の他、1人暮らし、グループホーム、配偶者との2人暮らし、兄弟と同居など様々。
- ・保護者は、共働きの家庭が多い。
- ・通所後は、居宅介護を活用して自宅で過ごす方や、移動支援により時間を過ごす方がいる。特に高齢の保護者や祖父母が支援している家庭では、ショートステイや日中一時支援の利用率が高い。

(2) 利用ニーズ

- ・若い保護者（40代後半～50代）は、就労支援として毎日、高齢の保護者（70代～80代）や祖父母が支援している家庭では、レスパイト目的として随時とニーズが異なる。
- ・強度行動障害など、障害が重い方は、夕方の時間延長のニーズが高い。
- ・就労継続支援B型の利用者は、一人で過ごすことが可能なことが多いため、延長のニーズは生活介護の利用者の方が高い。

(3) 課題

- ・職員体制の変更に対応する人材の確保。
- ・時間差の送迎に対応するドライバーの確保。
- ・採用難に加えて、職員が遅番などシフト勤務を希望しない。
- ・延長の準備段階では、報酬が増えない中での段階的な人材確保が困難。
- ・送迎時間がサービス提供時間に含まれず、報酬換算できない。
- ・人件費の増加、送迎の委託料上昇。

3 今後の対応

今年度実施する実態調査や他自治体の施設視察を合わせて、課題を整理し、実施手法についてさらに検討する。